

あ・と・が・き

日高の軽種馬育成調教場では、屋外馬場の使用開始に伴い、4月8日に各関係者の方々にお集まり頂き、人馬の安全を祈願し、馬場清め式を行いました。現在では、芝馬場の緑色も鮮やかとなり、1,600mトラックや1,600m直線等屋外馬場での調教が盛んに行われているところです。また、当調教場を利用して開催されておりました「ひだかトレーニングセール」の本年度中止の影響もなく、5月3日には一日の利用頭数が787頭となり、最高記録を更新しました。今後も安全で円滑な調教場の運営管理に努めてまいります。

当センター研修生第29期21名(うち女性3名)は各人各様の夢・希望を胸に、4月12日に入講、馬社会の入口に飛び込んできました。軽快な速歩もおぼつかなかった彼らが、現在では走路での駆歩騎乗へと進歩を遂げている状況です。一日も早く彼らの夢がかなうことを期待しつつ、皆様方のご指導・ご協力をお願い致します。(Y.H.)

「たづな」欄には本年3月1日付の定期異動でJRA日高育成牧場長に就任された高松勝憲場長にこれからの抱負について語っていただきました。日高勤務は3度目ということですが、引き続きご指導およびご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

シリーズで掲載している「やさしい育成技術」では、JRA日高育成牧場の頃末憲治専門役に子馬の管理法のうち初期育成調教法について解説していただきました。基礎的内容をよく理解して若馬の飼養管理技術の向上に役立てていただければと思います。「調査・研究」では、「育成後期の軽種馬における浅指屈腱炎の発生状況とその予後」についてBTC軽種馬診療所の日高修平が執筆しています。屈腱炎の発症予防の参考になれば幸いです。

「科学の箱馬車」には「馬の胃潰瘍症候群について」、メリアルジャパン(株)コンパニオンアニマル部門学術部の市川康明氏に執筆していただきました。育成馬の約3割にみられる胃潰瘍ですが、罹患率の減少を期待しています。「海外の馬最新情報」では、喉頭形成術の術後評価について紹介しました。また、「馬にみられる病気」では、前号に続き腱の運動負荷に伴う変化を中心に解説しています。まだ不明な部分の多い屈腱炎ですが、少しでも減少することが望めます。

(T.Y.)